



KUMAMOTO GREEN

The Weekly Bulletin

Rotary-Club



2015-2016年度
テーマ

国際ロータリー 「世界へのプレゼントになろう」

地区方針 「ロータリーの活動を通して、新たな気づきを、そして自己の成長へつなげよう」

熊本グリーンR.C. 「ロータリーの可能性に挑む」

R.I. 会長 K.R. "ラビ" ラビンドラン

R.I. 2720 地区 ガバナー 野田 三郎

熊本グリーンR.C. 会長 大友 利行

■例会日：毎週月曜日 18:30～19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：大友 利行 ■幹事：荒木 一之 ■会報担当：長野 義文
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgrc@serc2720.org

国際ロータリー 第2720地区 熊本グリーンロータリークラブ週報

【2016年2月15日】

第1206回
2015-2016年度 第26回

【例会】

1. 開会・点鐘 18:30
2. 食事と交歓

「手に手つないで」 (ロータリーソング)

来訪者紹介

なし

友情の握手

会長スピーチ (大友 利行 会長)

陰暦2月15日は釈尊が息をひきとられた日であったといわれます。そこでこの日を「涅槃会」とよび、お釈迦様を偲ぶ日としています。涅槃とはサンスクリットでニルバーナといい、生命の火が消えたことを意味します。

ヒラニヤヴァティー河のむこうは、クシナーラのマツラ族の土地、河を渡られて侍者アーナンダに「わたしのために、二本並んだサーラ樹の間に、頭を北に向けて床を用意してくれ、アーナンダよ、わたしは疲れた、横になりたい」釈迦は静かに目を閉じられた。釈尊の80年の生涯のうち45年は伝道の旅、説法の旅に明け暮れた、遊行の人生、今、まさに幕を降ろさんとしている。アーナンダは思わず涙を流した。すると「アーナンダよ悲しむな、嘆くな、わたしはあらかじめこのように説いたではないか。

すべてのものは生じ、存在し、つくられ、滅するものであると」

そして集まった修行僧たちに最後のことを言われた「もろもろの事象は過ぎ去るものである。怠ることなく修行を完成なさい」とその仏典には語られています。

また、この2月15日は平安後期の歌人西行の忌日でもあります。有名な「願わくは花のしたにて春死なむ そのきさらぎの望月のころ」の歌は西行晩年の作、2月15日の涅槃会に自分も死にたいという釈尊への憧れを述べているのです。

幹事報告 (荒木 一之 幹事)

■ 報告事項(その他のロータリー関係)

①ガバナーノミニー・デグジネート(永田ガバナーの次の方) 候補者推薦について
2018~2019年ガバナー候補者がクラブよりある場合は、2016年4月8日(金)迄にクラブよりご推薦下さい。

■ 例会変更

<変更>

【熊本東RC】

3月1日(火)の例会は、米山奨学生送別会例会のため、同日19:00より松屋本館にて行います。

【熊本'05福祉RC】

3月8日(火)の例会は、県民総合運動公園清掃のため、同日午前07:00より、県民総合公園駐車場集合にて行います。

卓話
予定

2/22 「世界で活躍するロータリアン」～世界で活躍するロータリー紹介 (DVD鑑賞)～

2/29 「日本で作られた世界地図」 河島一夫 会員卓話

3/7 「熊本グリーンR.C.創立27周年記念例会」アトラクション 元グリーンRAC 上田由美さん(ジャズシンガー)

3/17 「熊本北R.C.との合同例会」★3/14(月)→3/17(木)に例会変更

卓話：「永田町&霞が関&ふるさと再生&立志学舎」 倉田榮喜会員

グリーン・クラブの例会日がきても、出席するかどうか決めるには及ばません。というのは、私にとって出席は決まりきった事だからです。これは、ロータリーに入会したとき受入れた義務の一つです。

園駐車場集合にて行います。

【熊本平成RC】

①3月9日(水)の例会は、丸山ハイランド作業のため、3月12日(土)午前09:00より丸山ハイランドにて行います。

②3月23日(水)の例会は、観桜会のため、同日19:00より行います。場所は未定です。

<取止め>

下記の例会は定款第6条第1節に基づき、例会を取りやめます。

【熊本'05福祉RC】 3月29日(火)

【熊本平成RC】 3月30日(水)

スマイル (上田観一 会員)

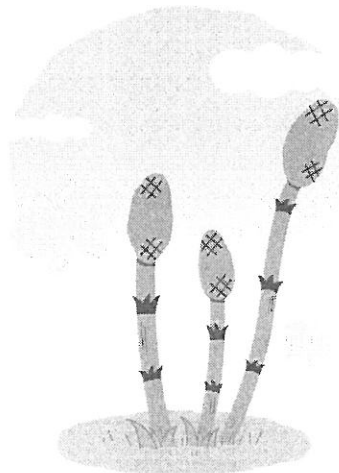
○●大友 利行 君、荒木 一之 君
 ○①「会員増強のクラブフォーラム、何をしても
 ○人がいなくては何も出来ませんので皆で頑
 ○張りましょう」
 ○●河島 一夫 君
 ○「今日はクラブフォーラムで会員増強の話で
 ○す。皆さんよろしくお願ひ致します。」
 ○●上田 観一 君、十時義七郎 君
 ○長野 義文 君、栗山 義則 君
 ○「本日は河島会員の会員増強のフォーラムと
 ○いう事で、沢山の会員増強できるように頑
 ○張って下さい。期待しています。」

出席報告 (田中 純司 会員)

	会員総数	22名	出席率
2月15日	出席免除会員数	1名	57.14%
	計算上会員数	21名	
	出席会員数	12名	
2月1日	前回の出席会員数	11名	61.90%
	メイクアップ数	2名	
	修正出席会員数	13名	
メイクアップ済み会員及びメイクアップ訪問先			
2/9 熊本東RC 上田 君			

委員会報告

①ロータリーの友2月号の紹介
報告者：本田悟士クラブ広報委員長

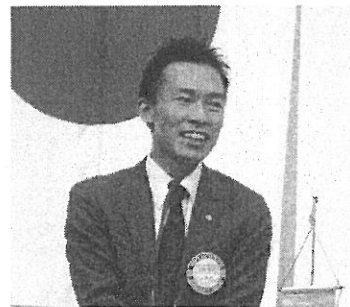


3. 例会プログラム

基調卓話 会員増強委員長 河島 一夫
会員増強クラブフォーラム



十時義七郎会員より
ベテラン会員としての意見を拝聴



本田悟士会員より若手会員としての
意見を言って頂きました

ロータリアンの“フードファイト” 米国での食料支援プロジェクト

日本を含むどの国でも、食べるものがなくて困っている人たちがいます。空腹に苦しみ抜いた拳句、命を落とす子どもたちのニュースを聞くたびに、自分に何ができると考える方もいるでしょう。

以下の記事は、米国ミズーリ州のロータリー会員によって行われた奉仕プロジェクトに関するものです。



「食事会」から「食料提供」へ

食べ物がないで困っている人はアメリカにも大勢おり、ミズーリ州の一部地域に限ると、その数は6人に1人となります（食糧バンク調べ）。

そこで、ロータリー会員のスティーブ・デュールさんはある提案をしました。地元ロータリー地区のガバナー就任を控え、通例の食事会ではなく、食糧バンクへの支援を地区会員にお願いしたのでした。

その結果、会員だけでなく、ローターアクターや地元住民が競って支援を寄せる“フードファイト”となり、保存食4,500キログラム以上と寄付19,000ドルを集める大成功プロジェクトとなりました。

中でも際立った活躍をしたのは、ジェファーソンシティーのロータリー会員です。土曜日にスーパーマーケットの外で買い物客に協力をお願いし、約1,130キログラム分の保存食品を集めました。コロンビア市の会員も多くの時間をボランティア活動に捧げ、2,000ドル以上を寄付したクラブも複数ありました。また、ローターアクトクラブ会員の参加も大きな力となりました。

さらに、地域住民と力を合わせて約2,270キログラムものライスクリスピー（アメリカ伝統のシリアル菓子）の梱包作業に参加。はしごに登ったボランティアが幅4.6メートルの箱か

らシャベルでシリアルを大きな容器に移し、それをプラスチック容器に小分けする作業では、参加者全員が息を合わせる必要があります。

奉仕を大切にしているロータリーを象徴する活動で新年度をスタートしたかったとデュールさん。この初の試みを通じて会員の結束も強まったと話します。実際、地区内49クラブ中、36クラブが参加しました。

クラブ会長のラリー・プライスさん（マウンテンビュー・ロータリークラブ）は、「自分の町に食糧バンクの世話になっている人がこんなにいるとは知らなかった」と語り、思い出に残る経験になったと振り返ります。「食料を受け取った方々も、とても感謝していました」

常識を覆すガバナー就任式

デュールさんのガバナー就任式は、実にユニークなものでした。場所は食糧バンク、時間は作業合間の休憩タイム。豪華な食事はなく、参加者はショートパンツというラフな格好での“式典”となりました。しかし、これこそ、デュールさんが思い描いていた就任式でした。

「汗水流して取り組んでこそ奉仕といえます。気分も爽快になりますよ。これをきっかけに、クラブは今後も食糧バンクを支えてくれるでしょう」

食べ物のない人たちを助ける会員たちの活動は始まったばかり。今後の展開に期待が高まります。

平和への道をさぐる

ロータリー世界平和会議

1月15日と16日、カリフォルニア州で「ロータリー世界平和会議」（Rotary World Peace Conference）が開かれ、平和構築をめざす人や専門家が世界中から集まりました。会場となったサンバーナーディーノ郡の町オンタリオは、約1カ月半前、死者14名と負傷者20名以上の惨事となった銃乱射テロ事件の現場からそう遠くありません。期せずして、この事件が平和会議の重要性をさらに強める結果となりました。

サンバーナーディーノ郡行政官を務め、フォンタナ・ロータリークラブ（カリフォルニア

州)の会員であるジャニス・ルサーフォードさんは、開会本会議で次のように述べました。「今までにも増して、私たちが一体となって平和を築き、人びとの苦しみを和らげる必要があります。(中略)このことを世界中の地域社会に伝えようとする皆さんの努力に心から感謝します」。この挨拶の後、ルサーフォードさんは1月15日を「サンバーナーディーノ郡の平和の日」とすることを宣言しました。

ロータリー会長主催会議の1回目として開かれたこの会議には、平和、教育、ビジネス、法律、医療など各分野のリーダー150人以上を含む計1,500人以上が出席。「教育を通じた平和の実現」「人身売買の撲滅」「紛争をなくすためにメディアが果たす役割」など、実践的な解決策をさぐる100以上の分科会とワークショップが行われました。

この会議について、K. R. ラビンドラン国際ロータリー会長は「ロータリー会員がいかに平和構築に寄与できるかを示す例」と話します。「政府や国連が平和を実現してくれるのを待っていてはいけません。平和は誰かが運んでくれるものだとは期待してはならないのです。(中略)平和とは、社会の土台となる草の根レベルで築かなければなりません。この会議から学べる貴重な情報は、今後の生活の中で、地元地域で、そして世界で、争いを防いでいくために役立つものです」

さらに、人道的支援に熱心な女優シャロン・ストーンさんも講演し、思いやりと相互理解を育むために寛容な心をもつよう出席者に呼びかけました。「今日の世界では、テクノロジーの発達のおかげで他国の文化や信仰について学びやすくなりました」とストーンさん。「敵対する者を取りまく事情を理解できれば、対応策もより明らかになるものです」と述べ、互いの違いを学び、受け入れあうことの重要性を訴えました。

ギャングに走った少年たちを支援しているロサンゼルス市の団体、Homeboy Industriesの代表、グレッグ・ボイル牧師も、少しずつ世界を変えているロータリーの活動を評価しました。「ロータリーは、人と人とを分け隔てている壁を取り除こうと決意しました」とボイル牧師。「皆さん(ロータリー会員)は、社会の底辺にいる人を救い出すことによって、底辺そのものをなくすことの必要性を理解しています。皆さんは、貧しい人、社会的な弱者、尊厳を侵された人たちの側に立って活動しています」

平和と紛争解決の研究や実地研修を通じて

平和構築に貢献できる人材を育てる「ロータリー平和フェロウシップ」にもスポットライトが当てられました。戦争、暴力、不寛容に対する、いわばロータリー最大の武器となるこのプログラム。今回の会議にも数十人のロータリー平和フェロー(プログラム卒業生)が出席し、ロータリー平和センターやロータリークラブが平和にどう貢献できるかを語りました。中でも、最近クイーンズランド大学(オーストラリア)を卒業し、現在はアフリカと中東の団体にアドバイスをする米国のコンサルティング会社で働くクリストファー・ザンバカリさんは、今回の会議について「数多く行われている平和構築活動について、多くの人に知ってもらおうチャンス」と話します。「平和については、母国側の視点だけで捉えている人が少なくありません。(中略)今回のような会議は、平和実現に向けた多くの可能性を開くものです」

そのほかの講演者は、米国平和部隊のキャリアー・ヘスラー・ラデレット長官、レバノン特別法廷のダニエル・ンセレコ判事、国連財団シニアアドバイザーであるジリアン・ソレンセン氏、経済平和研究所の創設者で会長であるスティーブ・キレリア氏、ダン・ラングレン元米国下院議員、カーターセンターのCEOで元在バングラデシュ米国大使であるメアリー・アン・ピーターズ氏など。



1月15日、米国カリフォルニア州で開かれたロータリー世界平和会議で「ピース」サインをする女優シャロン・ストーンさん。ストーンさんは人道的活動に熱心に取り組んでいます。

写真提供 Rotary International/Ryan Hyland